

登録コード	E4430901	開講年度	2026				
授業科目	教育相談の基礎と方法 B					担当教員	高橋 史 他
英文授業名	Introduction to educational guidance					副担当	茅野 理恵・向井 秀文
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・1時限	対象学生	
講義室	教育 E 5 0 4 講義室	授業形態		講義	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観					⇔	・子どもと保護者の立場に立って議論できるようになる。
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能					⇔	・発達障害の特性理解等の知識に基づいて行動問題の背景について論じられる。 ・保護者の立場に立って面談を展開できるようになる。
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	授業の前半では、心理支援における言語面接を中心として、学校における心理的援助者としての基礎的知識・技能を習得する。また、発達障害を含む子どもの心理社会的困難の理解と、それに基づく教育実践について理解する。授業の後半では、教育相談の全体像を知り、児童生徒理解のためのアセスメント手法について学ぶ。また、「チーム学校」としてのチームによる援助の実際、および保護者支援の実際について学ぶ。授業の最後には、学習内容の復習を行い、理論と実践の往還を行う。全体を通して、長野県内の小中学校における対応および連携の具体例を紹介することで、教員としての信州志向を促進する。						
(5)授業計画	<第1回～第6回まで担当 高橋 史 教員> 第1回：教育現場で起きている諸問題と教育相談の役割 第2回：カウンセリングにおける3つの態度条件 第3回：カウンセリングのかかわり技法 第4回：アセスメントの技法（行動観察法） 第5回：アセスメントの技法（問題の整理） 第6回：個を育てる言葉かけの技法 <第7回～第12回まで担当 茅野理恵 教員> 第7回：教育相談とは何かーチームによる支援ー 第8回：子どものほめ方・しかり方 第9回：子どもの感情の育て方 第10回：学校で苦戦する子どもたちの理解と対応 第11回：子どもの心の危機への理解と対応ー災害・事件・事故ー 第12回：いじめ問題への対応・保護者との連携 <第13回～14回を担当 向井秀文 教員> 第13回：カウンセリングの理論 第14回：カウンセリングの実践 授業アンケート 期末レポート						
(6)成績評価の方法	・毎回の授業について、フォーラムへの感想の書き込みおよびディスカッションへの参加 70点 ・授業のねらいの到達度を測る期末レポート 30点 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	・授業で示された例題に限定した議論ができれば「水準にある」 ・他の事例に応用した議論ができれば「やや上にある」 ・授業で示されなかった資料を用いて新たな視点から議論ができれば「かなり上にある」 ・授業で示されなかった資料を用いて新たな問題の発見と解決策の提案ができれば「卓越している」						
(8)事前事後学習の内容	授業視聴後に感想およびディスカッションの入力を求める。学生が独自に調べた情報や資料をディスカッションに含めることを強く推奨する。						
(9)履修上の注意	・授業で紹介される事例について、授業外で口外しないこと。守秘義務を意識すること。 ・自習に時間を割くことを苦にしない学生の受講を求める。						
(10)質問、相談への対応及び連絡先	高橋史研究室（東校舎4階 E406） オフィスアワー：木曜日13:00～14:30 e-mail: f_taka@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	指定しない						
【参考文献】	五十嵐哲也・杉本希映・茅野理恵 2022 学校で気になる子どものサイン増補改訂版 少年写真新聞社 五十嵐哲也・茅野理恵・杉本希映 2022 先生に知って欲しい家庭のサイン 少年写真新聞社 五十嵐哲也・茅野理恵 2017 保健室・職員室からの学校安全 事例別 病気、けが、緊急事態と危機管理 Vol.1・Vol.2 少年写真新聞社						